

# 平成21年度 【 学園研究費助成金<A> 】 研究成果報告書

学部名 生活科学部

フリガナ ムカミ シ  
氏名 村上 心

研究期間 平成21年度

研究課題名 国際ワークショップ手法による地域・団地再生

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	村上 心	生活科学部	教授
研究分担者	橋本 雅好	生活科学部	講師
研究分担者	川野 紀江	生活科学部	助手

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

研究代表者の村上は、これまでに団地・地域の再生に関する研究を我が国において先駆的に行ってきた。本申請においては、国際ワークショップ手法を用いて地域・団地再生研究をすすめると同時に、本学の国際交流を推進し、これまでの研究成果を社会に還元することを目的とする。

具体的には、以下の3件のワークショップを企画・実施する。

- ①University of New South Wales, Faculty of the Built Environment との名古屋・地域再生ワークショップ
- ②アジア研究者との団地再生ワークショップ
- ③ドイツの集合住宅・団地再生に関するワークショップ

## 2. 研究方法等 (300字以内で記述)

【企画①University of New South Wales, Faculty of the Built Environment との名古屋・地域再生ワークショップ】2009年11月(約2週間)に、NSW大学の教員・学生と名古屋の建築系6大学(榴大・名大・名工大・愛工大・名市大・名城大)の教員・学生が連携して、国際ワークショップを実施する。錦2丁目地区を対象として再生提案をまとめ、発表を行う。

【企画②アジア研究者との団地再生ワークショップ】2009年11月に、一般公開にて団地再生ワークショップを実施する。主対象国を韓国とし、韓国の団地再生研究者を招聘し、日本の研究者、行政関係者、市民らと討議を行う。

【企画③ドイツの集合住宅・団地再生に関するワークショップ】現地調査、及び、現地関係者とのミーティングを2009年12月に行い、その成果を基に、団地再生研究者・実務者を対象としてワークショップを実施する。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

各企画について、以下のとおりワークショップを計画・実施した。

【企画① タイトル「University of New South Wales + Universities in NAGOYA Joint Architectural and Urban Design Workshop 2009」】実施期間：2009年11月10日～25日、ワークショップ参加者：University of New South Wales 教員+学生、椋山女学園大学生生活環境デザイン学科教員(村上)+学生有志、名古屋大学・名古屋工業大学教員+学生、展示・シンポジウム場所：11月23日 名古屋都市センター

NSW 大学+名古屋6大学による3つの混合チームにより、錦2丁目を対象とした再生提案を計画し、発表を行った。

【企画②タイトル「韓国の団地再生/リモデリング」】実施日：2009年11月7日、実施場所：名古屋都市センター(一般公開)、ワークショップ参加者：韓国団地研究者(崔周永氏・大眞大學都市工学科教授/趙美蘭氏・大眞大學建築工学科講師/梁成旭・Korea Institute of Urban & Architectural Pathology 所長/村上心)、マレーシア調査報告：市川智章氏・名古屋大学大学院生

韓国団地再生の概要、韓国の都市再生の現況と特性、韓国の団地/集合住宅の歴史とストック現況及び再生/リモデリングの問題 についての発表の後、活発なディスカッションが行われた。また、椋山女学園大学村上研究室との共同研究成果報告として、「マレーシアの団地再生」についての発表を行った。

【企画③タイトル「ドイツの集合住宅再生事例 実地調査報告」】調査実施日：2009年12月9日～16日、調査実施者：村上心・橋本雅好、調査概要：《インタビュー調査》Thomas Bock (ミュンヘン工科大学教授) 氏 / Gavi Häusser 氏・Andri Bodenschatz 氏・Wolfgang Lunge 氏 (共にライネフェルデ市民会議) / Petra Franke 氏・Brigitta Winkler 氏 (共に Leinefelde Ökumfnts Werk Stadt) / Karl Altdorfer 氏 (ヘラースドルフ団地管理者) / Franz Jahnn 氏 (マルツァーン団地管理者) 《実地調査》デュッセルドルフ メディア・ハーバー集合住宅/ライネフェルデ団地再生事例/ヘラースドルフ団地/マルツァーン団地/ブリッツ・ジードルンク集合住宅 / シャルロッテン通りの集合住宅 ワorkshop実施日：2010年1月28日、実施場所：椋山女学園大学、参加者：住宅再生部会(研究会)メンバー 調査報告者：橋本雅好

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①ワークショップ	②団地再生	③韓国	④ドイツ
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

研究成果は、以下のように公開した。

企画①：2009年11月23日 一般公開ワークショップ 場所：名古屋都市センター

2009年11月24日～2010年1月11日 成果展示 場所：名古屋都市センター

企画②：2009年11月7日 場所：名古屋都市センター 一般公開ワークショップ

企画③：2010年1月28日 場所：椋山女学園大学 一般公開ワークショップ